

派遣先	日本人学校 補習授業校	派遣 職名	個人 番号	2 ア 推薦職種 ※	校長・教頭・教諭					
1 推薦者番号 □□-□-□□□		在外教育施設派遣教員選考調査票			イ 派遣希望 ※	ア. どちらでもよい イ. 平成26年度即派遣のみ ウ. 平成27年度登録派遣のみ				
写真 (3.5cm × 4cm) 正面上半身 ・6ヶ月以内に撮影のもの ・写真の裏面に所属都道府県名 氏名を記入のこと(糊密着)	3 フリガナ 氏名	4 所属機関		教育委員会 大学 学校法人						
	5 生年月日	昭和 年 月 日 (満 歳)		6 性別 ※	男 ・ 女					
	7 フリガナ 現住所	都 道 府 県 〒 (電話 - -) (携帯 - -) (E-mail)								
8 フリガナ 所属学校名	都 道 府 県	市 町 立 村 区 (電話 - -)	職名	() 主任・主事						
9 最終学歴 ※	昭和 平成	年 月	大学 大学院	学部 学科 課程 (専攻)	卒 学歴 区分※ 院卒 短大卒 大卒 その他					
10 教職歴	通 算 経験年数	年	小学校経験 年	中学校経験 年	その他 () 年					
		在外教員経験 年	(詳細) 在外教育施設名		(S・H 年 月～S・H 年 月) (S・H 年 月～S・H 年 月)					
11 所有免許状等 ※	ア 免許状種類 (小)専・1・2 (中)専・1・2 (高)専・1 養教・幼 (特支)専・1・2	イ 免許教科 (中) 国・社・数・理・音・美・保体・技・家・職・外()・() (高) 国・地歴・公・数・理・音・美・工芸・書・保体・保・家・工・外()・() ウ 領域 視・聴・知・肢・病	工 司書教諭資格 ※		有 無					
			13 複式授業 担当経験 ※		有 無					
12 過去5年間の 授業担当教科 ※	小学校 (小学部)	全教科・国・社・算・理・生・音・図工・体・家								
	中学校 (中学部)	国・社・数・理・音・美・保体・技・家・外()								
14 教えたこと のある教科 ※	小学校 (小学部)	全教科・国・社・算・理・生・音・図工・体・家								
	中学校 (中学部)	国・社・数・理・音・美・保体・技・家・外()								
15 指導経験はない が教える自信の ある教科 ※	小学校 (小学部)	全教科・国・社・算・理・生・音・図工・体・家			取得見込免許教科(
	中学校 (中学部)	国・社・数・理・音・美・保体・技・家・外()			取得予定 平成 年 月					
16 外国語及び クラブ(部)活動 指導等 ※	区 分 A 自信がある B なんとかできる C 自信がない	ア. 外国語能力		イ. クラブ(部)活動等の指導力			ウ. その他		19 自動車運転免許 ※ 本人 有・無 配偶者 有・無	
		英語 ()語 読解 会話 読解 会話	格技 球技 (柔・剣) ()	水泳 音楽 (クラシック)	美術 進路 指導	パソコンでの 学習指導	インターネット 等の活用			
17 特 技 (資 格)			18 趣 味							
20 健康状態			21 既往症	無 ・ 有		病名 昭和 年 月 平成 年 月				
22 家 族 状 況	続柄	フリガナ 氏名	生年月日 (年 年齢)	職 業 (勤務先等)	同居・別居 の別 ※	同伴の 有・無 ※	国籍	健康状態・既往症・ケアを要 する事柄(特別支援等)		
	配偶者	※ 昭平	・	(満 歳)	()	同・別	有・無			
		※ 大昭平	・	(満 歳)	()	同・別	有・無			
		※ 大昭平	・	(満 歳)	()	同・別	有・無			
		※ 大昭平	・	(満 歳)	()	同・別	有・無			
		※ 大昭平	・	(満 歳)	()	同・別	有・無			
※ 大昭平	・	(満 歳)	()	同・別	有・無					
23 配偶者の所有 教員免許状			24 配偶者の 教職経験※	有 無	小 中	年 計 年				

25 10のうち管理職等経験	校長経験	年	小	年	副校長・教頭経験	年	小	年	管理・指導主事等経験	年	教務主任等経験	年
		年	中	年		年	中	年	()主任・主事	年	()主任・主事	年
	管理職試験状況※	ア	選考試験合格									
		イ	()									
26 勤務歴	発令年月	勤務校				発令年月	勤務校					
27 過去5年間の校務分掌等状況	年度	学級担任状況			校務分掌		クラブ活動担当		校外活動		現所属学校の状況	
	20	小	学年	専科							ア. 児童生徒数	
		中	()								人(学級)	
	21	小	学年	専科							イ. 教員数	
		中	()								人	
	22	小	学年	専科							ウ. その他	
	中	()										
	23	小	学年	専科								
		中	()									
	24	小	学年	専科								
		中	()									
28 過去5年間の研修状況												
29 派遣先についての希望※	ア. どこでも希望する					30 過去の受験回数	文部科学省受験 ※		なし		1回	
	イ. 下記の国又は地域は希望しない						都道府県受験 ※		なし		1回	
	① 希望しない理由							2回		3回以上		
	②							2回		3回以上		
31 受験理由												
32	上記のとおり提出します。											
	平成 年 月 日											
	氏 名											
	印											
33	上記記載事項が相違ないことを証明します。											
	平成 年 月 日											
	所属機関名											
	所属機関の長の氏名											
	所属長 公印											

摘 要												

選考調査票（別添カード）記入上の注意

1. 選考調査票は、選考に際しての基本的資料となるので、楷書体で丁寧に記入すること。
2. ※印欄は、該当するものを○で囲むこと。
3. 欄1は推薦者番号のみ都道府県教育委員会等が記入すること。欄2「推薦職種」、「派遣希望年度」には、教員本人ではなく、都道府県教育委員会等が推薦する職種、希望する派遣年度を記入すること。平成26年度即派遣でも平成27年度登録派遣でもどちらでもよい場合「ア」を、平成26年度即派遣のみ希望の場合「イ」を、平成27年度登録派遣のみ希望の場合「ウ」を○で囲むこと。
4. 欄4「所属機関」には、都道府県教育委員会名、所属大学名又は学校法人名を記入すること。
5. 欄5、22の年齢は、平成26年3月31日現在の満年齢を記入すること。
6. 欄7のE-mailは教員本人の個人アドレスを記入すること。
7. 欄7、8の電話番号は、市外局番から記載すること。
8. 欄8「所属学校名」のうち、職名欄には、校長・副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭等の職名を記入し、（ ）には教務主任等の担当を記入すること。
9. 欄3、7、8、22の氏名、現住所及び所属学校名には、必ず「フリガナ」を付すこと。欄22の続柄については、長女、次男等の別を明記すること。
10. 欄10の年数は、臨時的任用・非常勤講師等の正式採用以外の年数は除くこととし、平成26年3月31日現在で記入すること。（在外教員経歴は、派遣教員の経験のみ記入すること（現地採用は除く））
11. 欄11「所属免許状等」の「免許状の種類」については、小学校教諭1種免許状、中学校教諭2種免許状…は「(小)・1」「(中)・2」…、「免許教科」については、「国語」「数学」…は「国」「数」…の記号でそれぞれ略記している。高等学校教諭免許状「社会」を所有している場合は、地歴、公の両方を○で囲むこと。「免許教科」欄に該当がない場合は、（ ）内に当該所有免許教科名を記入すること。
特別支援学校の免許状改正により更新した者は、「免許状の種類」の「特支」の該当を○で囲むとともに、「ウ」領域のいずれかを○で囲むこと。
12. 欄11のエ「司書資格」を有する者とは、図書館法第5条第1項各号に該当する者をいう。
13. 欄12「過去5年間の授業担当教科」は、平成26年3月31日から起算した過去5年間に実際に担当したことのある教科を○で囲むこと。
14. 欄14「教えたことのある教科」は、過去に教えたことのある教科について○で囲むこと。
15. 欄15「指導経験はないが教える自信のある教科」は、免許状の有無に関わらず教える自信のある教科について○で囲むこと。また、平成26年度までに取得見込の免許教科がある場合は、教科名及び取得予定時期を記入すること。
16. 欄16「外国語、クラブ活動指導等」の「ア. 外国語能力」の英語欄は、いずれかに必ず○を記入すること。「クラブ活動等の指導力」は、これまで実際に担当したことのあるものについて○を記入すること。なお、「その他」について、「パソコンでの学習指導」欄は、実際の担当によるが、「インターネット等の活用」欄については、実際の担当の有無を問わない。
17. 欄17「特技（資格）」は、資格段位等がある場合、その資格段位を記入すること。また、語学に関する資格（英検、TOEFL等）等については必ず明記すること。
18. 欄20「健康状態」・欄21「既往症等」及び欄22「健康状態・既往症・ケアを要する事柄（特別支援等）」には、健康状態、既往症ならびに身体的特徴等を記入するほか、実際に発病した事実はなくても、長期の海外滞在にあたり、心身の健康面で懸念される事柄、特別支援等のケアを要する事柄についても記入すること。欄22「国籍」については、日本国籍以外を有する者について、その国籍を記入すること。
19. 欄25「管理職試験状況」については、管理職試験合格者については「ア」を、また選考試験等の受験予定者、校長（又は教頭）登用資格者等については「イ」を○で囲み、その旨記入すること。
20. 欄26「勤務歴」は、常勤の教員として任用された勤務校等を記入すること（例：〇〇市立△△小学校教諭、□□市教育委員会義務教育課指導主事）。
21. 欄27「過去5年間の校務分掌等状況」には、過去5年間に実際に担当したものをそれぞれ記入すること。また、「所属学校の状況」欄には、現任校の規模及び特徴等を記入すること。
22. 欄29「派遣先についての希望」には、ア・イのどちらか一方のみを○で囲み、イに○をした場合には、裏面の「在外教育施設一覧（教員派遣校）」に掲げる学校の所在する国または地域名を記入すること。
23. 欄30「過去の受験回数」は、今回の受験を除き、文部科学省、都道府県教育委員会それぞれについて該当する回数を○で囲むこと。
24. 欄31「受験理由」には、派遣教員として受験した理由を記述すること。
25. 欄33には、所属校長が記載事項について相違ないことを確認し証明すること。なお、校長候補者の場合は、所属市町村教育長が証明すること。
26. 「摘要」欄には一切記入しないこと。

平成24年度派遣教員のいる在外教育施設一覧

地域	日本人学校名
アジア 35校	1 ニュー・デリー
	2 ムンバイ
	3 ジャカルタ
	4 バンドン
	5 スラバヤ
	6 ハノイ
	7 ホーチミン
	8 シンガポール
	9 コロンボ
	10 バンコク
	11 シラチャ
	12 ソウル
	13 釜山
	14 北京
	15 天津
	16 青島
	17 広州
	18 深圳
	19 上海
	20 蘇州
	21 杭州
	22 大連
	23 香港
	24 イスラマバード
	25 カラチ
	26 ダッカ
	27 マニラ
	28 クアラルンプール
	29 ジョホール
	30 ペナン
	31 コタキナバル
	32 ヤンゴン
	33 台北
	34 台中
	35 高雄
北米 4校	36 シカゴ
	37 ニュー・ヨーク
	38 ニュージャージー
	39 グアム
中 南 米 14校	40 ブエノスアイレス
	41 カラカス
	42 グアテマラ
	43 サン・ホセ
	44 ボゴタ
	45 サンチャゴ
	46 パナマ
	47 アスンシオン
	48 サンパウロ
	49 マナオス
	50 リオ・デ・ジャネイロ
	51 リマ
	52 メキシコ
	53 アグアスカリエンテス

地域	日本人学校名
欧州 21校	54 ローマ
	55 ミラノ
	56 ウィーン
	57 アムステルダム
	58 ロッテルダム
	59 チューリッヒ
	60 マドリッド
	61 バルセロナ
	62 プラハ
	63 ベルリン
	64 デュッセルドルフ
	65 ハンブルグ
	66 フランクフルト
	67 ミュンヘン
	68 パリ
	69 ブラッセル
	70 ブダペスト
	71 ワルシャワ
	72 ブカレスト
	73 ロンドン
	74 モスクワ
大洋州 3校	75 シドニー
	76 パース
	77 メルボルン
中東 8校	78 アブダビ
	79 ドバイ
	80 テヘラン
	81 ドーハ
	82 リヤド
	83 ジェッダ
	84 イスタンブル
	85 バハレーン
アフ リカ 3校	86 カイロ
	87 ナイロビ
	88 ヨハネスブルグ

8 シンガポール クレメンティ チャンギ 中学部
19 上海 虹橋 浦東
23 香港 香港校小学部 香港校中学部 大埔校

日本人学校 計88校

地域	補習授業校名	
大規模 補習 授業校 39校	アジア1校	1 シンガポール
	北米 31校	2 ワシントン
		3 アトランタ
		4 シャーロット
		5 ローリー
		6 サン・フランシスコ
		7 シアトル
		8 シカゴ
		9 シンシナティ
		10 コロンバス
		11 オハイオ西部
		12 インディアナ
		13 デトロイト
		14 バトルクリーク
		15 中部テネシー
		16 セントラルケンタッキー
		17 イーストテネシー
		18 ニューヨーク
		19 ニュージャージー
		20 プリンストン
		21 フィラデルフィア
		22 ピッツバーグ
		23 ヒューストン
		24 ダラス
		25 ポートランド
		26 ボストン
		27 ホノルル
		28 マイアミ
		29 ロス・アンジェルズ
		30 サンディエゴ
		31 ヴァンクーヴァー
		32 トロント
	欧州 5校	33 ジュネーブ
		34 スtockホルム
		35 ブラッセル
		36 ロンドン
		37 ダービー
	大洋州 2校	38 クイーンズランド
	39 カンタベリー	

準全 日補 習校 4校	アジア	40 チェンナイ
	中南米	41 グアダハラ
	中東	42 オマーン
	アフリカ	43 ダレサラム

補習授業校 計43校

在外教育施設派遣教員推薦書

部 外 秘

フリガナ 候補者氏名					
① 所属機関の長の 推薦理由			ア イ ウ		
所 属 機 関 の 長 の 所 見	② 教職に 対する 態度	児童・生徒に 対する指導力	評価	特 記 事 項	
		教育に対する熱意			
		校務の処理			
	③ 服 務 に 対 す る 態 度	責 任 感	特 記 事 項		
		協 調 性			
		積 極 性			
		研 究 心			
		規 律			
	適 応 性				
	④ 研修に対する態度				
	⑤ その他				
	上記のとおり、在外教育施設派遣教員適格者として推薦します。				
平成 年 月 日					
所属機関名 所属機関の長の氏名 連絡先(電話番号)				所属長 公印	

推薦書記入上の注意

1. 推薦書は、選考に際しての基本的資料とするので、取扱いには十分注意すること。(市町村教育委員会には、厳封で提出すること。)
2. ①「所属機関の長の推薦理由」欄は、所属校長(校長候補者の場合は市町村教育長)が推薦理由を記入すること。
なお、右欄は、次の事項のいずれかを必ず○で囲むこと。
ア. 在外教育施設の教育に十分貢献できる教員として、自信をもって推薦する。
イ. 在外教育施設の教員として、普通程度である。
ウ. 在外教育施設の教員として、やや心配な面がある。
(ウの場合、心配な点を下の特記事項欄等に記入すること。)
3. ②「教職に対する態度」欄及び③「服務に対する態度」欄の「評価」には、児童・生徒に対する指導力等の各事項についての評価(絶対評価)を、下記の表による10段階の点数で記入すること。
「特記事項」には、特記すべき事項その他特に参考となる事項を記入すること。

評 価	点 数
特に優秀	10～9
優 秀	8～7
普 通	6
やや劣る	5～4
劣 る	3～1

4. ④「研修に対する態度」欄は、研修への参加状況、熱意等について記入すること。なお管理職候補者の場合は、「管理職としての資質(職員に対する指導力等)」とすること。
5. 「その他」欄は、性格上の長所・短所、日常の生活態度、健康状況等について記入すること。
6. 「所属機関の長の氏名 印」欄は、所属校長名を、校長候補者の場合は市町村教育長名を記載の上、公印を使用すること。また選考段階で、当該教員について文部科学省から直接問い合わせることがあります。